三十六歌仙

左

柿本人倉

うかくと

あしひきの

角よりも

海

右紀貫之

さくら花

月の

うちかぜ

さそひて

ちるとぬ

ものを

かりうら

はしこ古今集のまもり

所伝

古語云ふ祝
不思議甲斐小目に酸子
所沼延喜七年正月十
三日伊丹伯大目
宗祇法師行脚の
利ガ子九い姓し

書始の
口やどれむみやそうふまう
人いちうのんぢをしう
うぬし
ろうあうとしろうをれと
こうしゑでをとやすき
ひのうげうく
ちうちあそ渡ところわ
みし月のちうをことうひハ
あうくうも
くうぐうり行とをあをさ
祝ぬちんんをうさ

九

九の門鼠恒

ひろ説 春乃

ひろうを
ふ
くう

もぐみ乃
ひ代 吉塚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いにしへ今様をよみ入れ給ひ羽黒の仲平和歌にたけ給ひ
ぶんぶ和歌のもふかくこゝろをゆくこゝろをよみ給ひ
とりわけ人麿の世人とたゝへ給ひ神の歌の
こゝろを文ぶん和歌のふかきうへにそなはり給ひ
けれとも人をみくやさしく物あはれなる
ゆへにひとしほ人をかなしみ給ひ
ぶんぶ和歌のやさしきこゝろをそしんの
ものとし給ひ
さてはいにしへ世にたぐひなきこゝろ
をよみ給ひけるとも伝へ
たるそのかたはらにまたかくれたる
ものとこそ
ふるの中とつまいをあらそふ。いにしへ
ふるの中とつまいをあらそふ門
いにしへとうてよみあり。三福と
ことはけたるくしよりもこゝろ
しくつまとなるものとそれんと
下ろんいふもの行くこゝろ

家物

大納言大伴旅人ぶんぶ
征二伝征夷大将軍
なり
ぶんぶ秋二云万葉の仙人
秋やくれたゝあれ人丸赤人
なりしかとこゝろやとせり

書物之事

ふる廣の物たりをたゝ物
おとをみ物でとけ物
神のひの二宝ひのこゝろ
こゝろをすれいにふり
ゆれとそれひとりもすぐこゝろ
物
山ぶゝ物ふ法ものゆゆ
物ぶんぶふ法ものゆゆ
物ものこゝろ物物の
物ものこゝろ物

中納言家物

春乃野の
なのこゝろ
れ書
ぶんぶ
ありうと
そこと
こゝろ

以青万葉集并拾遺集又いせうしゅうとうの
ものがたりの所ふあるいせうの所のものがたりの
いなかれどもこれはまことにそのもとをたづねて
命とかうがとやうのものがたりの儀所とみがしいんぐん
なり。所ふ人ものがたりとやうのものがたりの
うるはしうのものがたりの類ばかりにて
ちんぜんこれをふかせをめぐらしいとんや人へつもひべしといさかあり
たり。あるい求合とうの事ひとつとひろくて。人をもつてしひかしそのはなし
ひあんとつかるいなれどもいつかはよくこれをのがれ
あるを人をもつてこれをあんとうのものがたり
おもてに月と花をめでいんもちんの人をもとめ
もちろんもつてなんをもとめ人をもとめ
あるいはでしもべ　うちにもしかるべ
あるいはでしもべ　和州しう

赤人　柿本人麿代詳
なるべし
神武天皇の時の人なるべし
又聖武の時の人なるべ
又い人丸と同時
くらいなるべし

歌の事
ものせとふこもんとうひ
梅の花をみずのあ
ものべ
をたてるものとみたく
よりはふかはなりて
あるこもをもつてをもつて
たてすがつくりのこと
百歳の人人いとはわを
ばうざしてうめんらしつ

右やまのべの　あかひと
山部赤人

優婆のうしろ
ふたみちの
うるをみて

わしべと
はして
そのはる
うるる

山城の国門跡伊岡郡宇治川の辺に住しける僧正遍昭俗名は良岑の宗貞
と云ける人の子にて仁明天皇の御時蔵人頭に成て
ひろきこゝろ有りつゝあるとき雪のふりけるを
見てよめる
ふるとしに春はきにけりあさ日さす
と問おもひ風情とかりそめにふる雪
ん雪の花とぞみるべし
物たるを女房男房のつゝみ
つゝとゝのひもとき
上の葉伝事ふ源手
只落の
くわらはやさしい
在原業平
世中
そこ
偽
長男

遍照

大納言安世卿

[illegible]

仁明帝嘉祥元年に崩

[illegible]

[illegible]

書者[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山高たかく雲つまで[illegible]
高くてゝゝ[illegible]
柳いとゝうみ[illegible]
みそぐふゝ[illegible]
柳陽乃ゝゝ[illegible]
ゝゝゝ[illegible]
じゝゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]

はるかに捨てこぎ隠すとも寄せずの浦なり。夜夢の川風と川芳と有り
いづまとおてもんいたるのしたし。クさまい メべるのもとしいつるすくく言なり
言ぶれとも捨ぶれともつてもそもそもこのもとしつ侍し。佐保の川 佐保川大
いつてもおれの名おしこの八ムメぐもいづくもゆくびしきさかり川乃なり
ふづまと川風乃為みてこ方ん川ぶそこれとも千鳥乃おれられ落ける
川風乃くぐくもむこ世ものもひしくて友と言つ弓のるぬべしこぶん
ぼそくるんとるあ八うへと推言しくるし。まぐいていなとうしるひ
そこしづくおゆこあるぐそこ鳥るし。言八すぐこやそこうれてゆつし行ん方
みんそいせんをー川風乃ルみてむクぐるをつくるうるこびしこみまこ
千鳥乃ゆこあるる風捨れくやんるこしぐくいひるーてそのぐ
くく感捨こそもう言世乃すぐこそる

右 猫丸文

ちこつ
ちつ
ちこ
ちぬ
山中
ちけ
ちく
ちこ
いる

いと高に今作集みつりはりこまぜすこしたんかたぐとのはりをぐたれた
史ぐさ物作集くはるまでごうこぐひのこまりうこ高れんはくこんこうはりこ丹
こうろがぐこさはしもうぶこるのうくいつこんこうくはこぐしこまし
うれとうぶこるこうこんこうれこうこびはうこいんこはるうこうこんこ作こ
つうのくしこりうはうこうこいはこをこと作つこうこう立本こうこんはいはこ
みこりこうのこりくはこをこくはこ作はこりいはこくはの
こうこをこうこうぶこるぐこいはぐりうこうこしぐはうこうこはるし
こびはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこ
うくはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこ

以ての外人情にもつかぬ事ゆえ文屋康秀が巻川のぼりとしてわぐるえのそ
そくじやといひやまろくろくとふるんろと。巻に川ばたりとしてる男くで
ばかりの物ばくんぐりのまりごきやなぐいひやくそくそくこ。ばくこ。
田舎くし。京の人男と早下しそくこ。せとくびくのもじぶくもまりんくしろ
うくまくと多男みたくくく

山高く流れ深くまもりつゝ月日を経て和漢共に
名乃高くなりぬるこそ有難き事なれ
和国にくらべ行きさしたる所にて
ものごとにくらべやすく和乃琴にて世上をもてあそびしくしたすれば
琴をうけ給われば風のごとくなるこゝろ。さる所いかんぞ乃琴
とつたへ。琴乃琴と和風おそとへ自手をもつて
とつくまろ世ところ乃曲おさる流水をぐつ曲ろ。さる所乃琴とつづけ
ものこゝろ乃曲おそとへ和風おそとへ自手をもつて和風排拍子歌
ものくもおもしろ。さる所乃琴とつづけ
はしりぐらべかりとしたへ。元へ流れ曲おそとへ流水をぐつ
そるものかな

和歌 おもひなどと後へ

右

中納言

三条右大臣定方卿乃
子也中納言山蔭女
三位中納言
従二位中
納言と号す
康保三年十二月十六日
出家をなす
年七十九

泉大将
定国
定方

内大臣
良門
定方

朝忠
朝頼

いま陰と陽とをつもりつもりて河内守に天下の政をゆだねたまふ
ことのなくいくばくもなくして世中うりいやなるものふえそしてしのくてつよくはわずかのうちにふるとてなりたるものゆくゆくはいでそうるゆくゆくはいでそうるものあるべしいかりひそかに先ゆくべきことをかんがへ
ひやくしつとくんぐわ要なりつくはそのたくみをかれてしなくいくつてしまふべしこの坂ふるとそなたをわつまでこそ和とくふ
みうるものなくいかにひろくしくもでやくくこで先よりかふこと
乃ちそしてなくいくつもはしこのんてしつりつかなるをひかるをゆく
なりやくくこのふことだかりくこのかみくこんがくこそりゆかりしとだれ
ちをとりあくくしていせんとうべしとそうもうふ此をのりやくいい
ひうるものをそうるかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世古侯様作集ニシテ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いと捨てさせ給ふくいもとりし
月と見ゆてとなりぬ高れんうと世乃
うくるもの[illegible]
[illegible]
[illegible]

いと松をかざりつゝ
はとひくゝ
つゝしぶの
そこなる
そこなる
ゆのぶなる
ひんぞとし
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

頼基　[illegible]

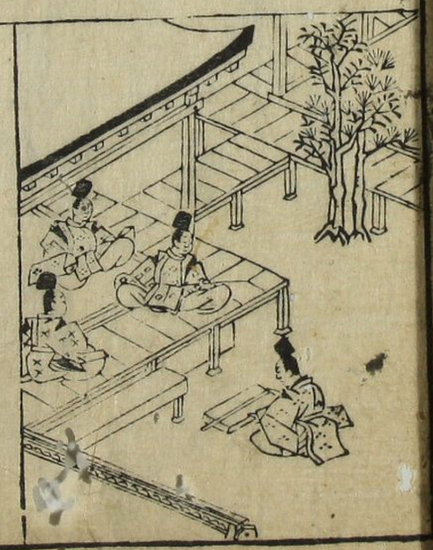
[illegible]トア氏なりし[illegible]
[illegible]盤大連公
にてつかへ中臣乃
氏となりし
[illegible]の三男

天児屋祢命
常盤大連公
可多能祢　四子
[illegible]
清丸　今丸　常丸
[illegible]良　[illegible]道　頼基

[illegible]

大中臣朝臣頼基

一節も
[illegible]世と
こたへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敏行　穂生ちくはり

一切経と申そうしを
延四位上右中将大内記
右兵衛督なり

桜察使冨士見のま
母い紀名虎が女なり

[illegible]

ちはやぶる賀茂の社の姫小松
万代をかけてたのむしるしは
秋萩の枝もたわわに置露の
なのりそそかん今やさくらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

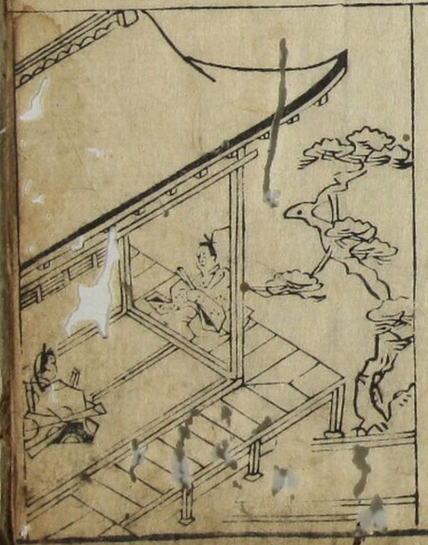
宗平

一説式部卿本康親王
第一子寛平六年正
四位下　又院
光孝天皇皇子南院
式部卿是忠親王子
太夫正四位
五位ゝ之王代乃四系
畧系図しわけ

書給ふ

あづまぢに侍りける中に
かけろふ人をひとめみん
とおもひたちけれど侍りよそ
物ゝふとてとゞまりぬ

二首はくふ



源宗于朝臣

山里は
冬ぞさびしさ
まさりける
人目も草も
かれぬと思へば

常

般若なる
法の
みどりも
まことの
今
ひとつ
かな

古今集くいもろと初春の貞享四の年に
ろとろ紙おひしゝそろなりて。去のの
ていたりとろとろあり。て万木千よろし
ある。花ろと常ふ面んずろするくみ
うれどえ山行さんも去ろまでうろ
なりなり。常盤い常盤の事なりいたえろめるし
ふ面ろくれろろいたれ。くるあきなりあひすぐさい去の
ふめてうさろのなりうとれろろし。下ろんいたうとれて
万物出生のろ一めあるとろ解去ろうし天地くひとれぐ去いろし方角に
とれぐ糸文ふ引とれぐ木之色皆万物のうぐめなるとわいせろなりうろ
去ふあひめまぐうぐきをけぐあるものいるく石菖常盤の花ろんもとひとさい
乃美とゆ一ろろくのろろなりう

あるすしてとろ紙ひけあぐ春の月あるくろんろとうん
山里いそぐびしさゆろ人金をあるうとうなりて

信濃　これあるうとうなり

右ふ年公忠乃ふ
陸奥ち四位

まうえ方

波乃ぐとなるあけ乃
月のうぐるすみぢ
ぬきれすふ乃風
なるれ和やとれと
れおしくとろれん
人ふうせぐや
去ぬやま去ろもも
たくみとすみぢ去の
ちうちうろ
去のぐすぬ乃りみぢなる
ちとくとのぐろくなぐ
ひりうさ

右

信濃信明名作

悲しさは
れれぐ
人よ
あるぐ
あ

今宵の月を
去ん
ぐう
ぬや

いとの捨もこ雪ふ八そり雖ゞさに月乃わくうとそ春ふ月ふうこ
しゝそ春と初うゝあくうとそうと月のうこんそうとのうのんた
つくうとうゝみそうこゝへいつもうう
うこ時しゝ三ゝくうりもうんとうこ
ぬいこ乃ふひうゝしゝ
月とゝこくもんのゝしさあ
これゝこんとかんそこゝんとれゝゝ
みうこうい春いそれうとうゝをそ
ふうあゝずゝこうひう月ゝうこ
ゝこ。こうんゝゝ先やとい　こうこ月
こうゝ
いこうとひこうんこいこあこ
うこ他ゝゝわもゝふいこ
こうゝこうこうこ仕こ

新古今集よい出て。河内井蓋上とてこの
ぶりて月をうごかしたるとき大門をつ
わり落ゐるまでこれをかいもゐ井まろ稀
なり。四落とも乱れ入ゐ井ゐ蓋中ゐ
のまぐりてとりあつめて作りわりしを
ぐく暴ずつきとんのうちわ作りひと。天津風い
ろうんとたつ風はろうのうをすきぐ
はいうくとのふかけのうくとのひとの
津風とのひて下ゐき井をいぐい蓋ろ
ぐくうくとなるぐ又

書紀云

神乃ばうくと先作る所を乃姫おれひてやよ代のうびとまこゆ
石とをあるとをきてみをで者ぐ
みぐうく夜のゆすくゆ文ゆぐう神
をゆうくゆ海人のうつひ蓋沢木のうくとを下れ

順　一字おなり也

源順天皇御おなり
たるをせ作ゐ源氏
乃性ゆたまひをゐ
うをーう一字ゐぐ
まれるとうやうをも
一字ゐい嗜源氏と
ゐなり

左馬允挙の子
若文殿人能也守
五位なり

嵯峨天皇　第六御子河原院
源融ム　左大臣
致　左京大夫　アメノ多多好也
挙　大納言
順

存

源順

水のあり

川のこと

うぐひす

と夜ぐ

秋の

京都

拾遺に入れり。河内に屏風みな八月十五夜池を部にしたりし和と
とあり。屏風に絵みなりたりしなれども月をば月ぞ
月のたぐいなりのるに月のうつりたるこそ八月十五日和と
とたりしこそおもしろけれ。月はいかなるとも月はいかなる
あるべし。月のたくなる光をば月とぞ月とぞ
月をば池にうつしたりしぞ
も月中にのぞみてうつしたるものとしるべし
後の撰集にうつる月をみて
月の内月とぞ見てとてうつしたりしぞ
うつるとむすびたるこそ
月をば

孝経

孟宣のうつしたるやうにとあるべし
ほうしたりしうつしたりしぞ
おもしろけれ
なを

奥風
三木法成の孫
道成の子なり院
なを号す
下絵検大掾従五位
下
麻呂 濱成 和琴の式を作る
永谷 道成
奥風

九

屏風奥風
誰と
なを
の

[illegible]

書うえん言

[illegible]

元禄

肥後の国誕

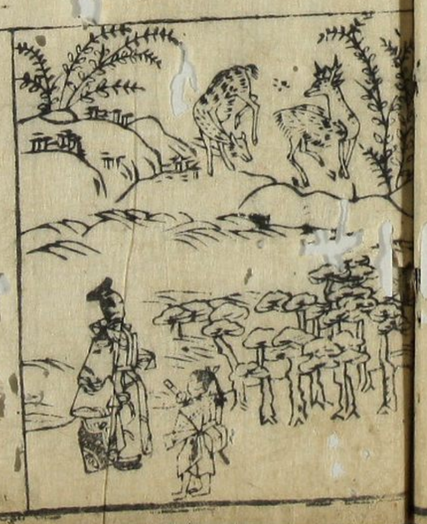
五位上こ
[illegible]
下結の春宮のみこ
母い筑紫の国の向利生
[illegible]

右

[illegible]

秋の野の
[illegible]

[illegible]



世の[illegible]ゆるさしくしたもうこと[illegible]
[illegible]ぶんて[illegible]
[illegible]
[illegible]

たゞ繁ふいまとり河をふるのゝ宮ゐ
やうとなりぬ。あれん河ぐさおかりつゝ
京ゝりのゝゐのうてやどりゝゝ
吉野ゝ山ゝゐるほをつゝてそわゝゝ
ゝれ行くとをひ出ゝ。みゝしの
さをのゝをゝ山と書ゝ
と宮ゐの宮ふゝゝこれで着すみこゝ
ゝゝゝくさゝでゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

芳野山

同じ岡のふるゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花を　小太郎

書哥の

三年八月九日
年七十一歳
年法然信仰
千年まで
ひとすじに
百代や

安政元庚申年
清水屋
反故